

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

交通と情報通信に関する社会的排除の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒山, 良洋 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1569

【課程博士】 (博士論文審査及び最終試験の結果要旨)

学生氏名：黒山 良洋

論文題目：交通と情報通信に関する社会的排除の研究

博士論文審査：

学生から提出された博士論文について、公開発表会が平成 30 年 2 月 9 日に行われ、審査委員と学生の間で質疑応答が繰り返さされ、博士論文としての質を十分に確保しているとの結論に至った。

論文のテーマである社会的排除は、個人が貧困状態にないことのみならず、社会活動への参加や、社会保障などの制度、サービスの利用を含む概念である。中でも、公共交通の利用の可否は、重要な要素として扱われている。一方、情報通信は人々の移動を代替または補完するサービスとされている点で交通との関連性がある。本研究は、交通と情報通信という 2 種類のサービスへのアクセシビリティを確保することで、いかに社会的排除が防止されるかを考察するものである。

社会的排除、ソーシャル・キャピタル、アクセシビリティの 3 つ概念を取り上げ、先行研究をもとに議論の整理を行っている。その上で、3 概念についての実証研究を、中山間地域と離島地域という条件不利地域を対象に行った。

まず、中山間地域の高齢者が外出を行う際の状況について分析した。調査は、知人訪問、社会活動、買い物の移動手段、目的地、活動頻度などに関して行った。その結果、自家用車が移動手段となっており、高齢女性は家族や知人が運転する自動車への同乗に頼ることが判明した。(3 章)

次に、離島における施設へのアクセシビリティの確保が、社会的包摂の実現にどのように関係しているかについて検証を行った。長崎県と鹿児島県の離島における高校、医療機関、食品スーパーの設置状況をまとめた後、現行の離島航路ダイヤに従って外出した場合、ダイヤを改正した場合等のアクセス可能施設数の変化を求め、離島交通政策に関する情報を得た。(4 章)

さらに、中山間地域において、住民が日常生活に関わる情報をどのような手段で収集しているかに関し、5 種類の情報を調査した。パソコン・携帯電話使用頻度についても調査し、紙媒体が情報アクセス手段として選択されているという結果を得た。(5 章)

全体として、既往研究の少ない分野において、一定の精度をもつ客観的分析を構築している。用語整理、実態調査の規模や深度に課題が残るものの、今後の経済学分野のみならず、交通工学や社会学の発展にも大きく貢献する優れた研究といえる。

以上の内容から、学生から提出された博士論文は、国内外の研究の水準に照らし、各研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

最終試験の結果要旨：

最終試験は平成 30 年 2 月 9 日に行われた。審査委員一同出席の下、学生に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。

学術論文は 1 編が第一著者として公表済み(黒山良洋「中山間地域の住民による生活情報へのアクセスに関する研究- デジタル・インクルージョンの観点から-」『情報通信学会誌』第 35 巻第 2 号、pp.53-61、2017 年)であることを確認した。

加えて国際会議において英語で発表しており、英語の学力については問題ないと判断した。

講演発表は国際会議 1 回、国内学会 3 回である。

合同セミナーについて、規定の学習時間および出席回数を満たしていることを確認した。

大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していることを確認した。

以上から、学生について博士論文審査、最終試験とも合格と判定した。